

新規就農までの道のり

体験



楽しさ・厳しさの両面を感じよう。

- 豊富町農業担い手センターへ相談、応募する
 - 受け入れ農家が決まる — 住み込みや宿泊施設はセンターで斡旋
 - 酪農家の仕事を体験する
- ☐ 受入期間：期間指定なし（通年で実施）
- ☐ 体験期間：7日～30日（要相談）
- ☐ 助成内容：交通費、傷害保険料、消耗品代（上限5万円）

研修



先輩から、酪農の“今”を教わろう。

- 豊富町農業担い手センターへ相談、応募する
 - 受け入れ農家が決まる — 住み込みや宿泊施設はセンターで斡旋
 - 技術の習得 ● 経営ノウハウの習得
- ☐ 対象者：概ね20歳以上53歳未満の方
- ☐ 研修手当：月額最大20万円
- ☐ 研修期間：1年間～2年間

就農

豊富町で新たな人生のスタート。

- 各事業採択に向けた準備を行う
- 牛舎等を改築し、機械や農用地を取得する

豊富町新規就農者誘致促進支援事業

- ① 農場リース事業の貸付期間に係る賃貸料の2分の1以内の額を助成する
- ② 固定資産税が賦課された年度から営農資産に係る固定資産税相当額を3年間にわたり交付する
- ③ 借入した農用地・農業用施設の購入及び経営開始に属する年度から2年以内に牛を導入するため、借入した農業関係制度資金の5分の1以内の額を補助する



愛媛県から未経験の酪農業へ。

愛媛県の畑作農家出身の30代男性Mさん。

前職は酪農とは縁のない「消防士」として働いていた。

獣医師である奥様からの勧めもあり、北海道での就農に興味を持つ。

インターネットで豊富町の新規就農制度を知り、酪農体験を経て現在研修中。

研修内容

元酪農家さんの空き家を譲り受けて居住し、近くの牧場へ働きに行く。

町の「酪農研修受入事業助成金」を使用し、年間180万円を受給予定。

その他に国からの助成金を年間150万円受給している。



大自然の中で日々、酪農と子育てを楽しんでいる。



放牧が主体の酪農環境。



すっかり牛にも慣れた様子。

地元の第一次産業へ転身。

豊富町出身の30代男性Aさん。

削蹄師として働き、牛は身近な存在だった。

農業への魅力を再確認し、酪農ヘルパーとして働く。

その後令和2年9月、離農した農家さんの跡地にて新規就農。

研修内容

酪農ヘルパーとして働いていたため、本人は「酪農研修生受入事業」を使用していないが、奥様が研修を受けるにあたり研修事業を使用。

平成31年4月から令和2年3月までで240万円。(月20万円)

就農後は豊富町新規就農誘致促進事業を活用し、約600万円を5年間受給している。その他、国の次世代人材投資事業経営開始型などの補助金も活用しており、経営開始後の早期経営確立を行った。



3人の子育てをしながら、
二人三脚で牧場を大きくしていく。

